

令和3年度 札幌自由が丘学園三和高等学校 学校評価結果

和寒町教育特区学校審議会条例第2条第1項第4号により、三和高等学校の令和3年度の学校運営全般の状況について、同校から提出された資料や聞き取り調査等を通して、下記のとおり評価を行いましたので、結果を町長に報告します。

評価項目		評価の視点	評 価	所 見
1	各教科の状況	教育課程の適切な運用と状況 教科指導の状況 進路指導の状況	良 い	本年度は、新型コロナウイルス感染拡大のため、和寒町で実施する計画となっていた「北海道科」及び「自然体験科」のスクーリングを行うことができなかった。代わって、オンライン授業やメディアを活用した学習に力を入れ、生徒たちも非常に真面目に取り組んでいたとのことである。特に、不登校等により学習が遅れ気味の生徒に対して、習熟度別の指導や個別指導を行うことで、知的障害をもった生徒への支援にもつながっていた。 次年度も、新型コロナウイルスへの対応が必要になると思われる。人員配置の工夫やICT技術の活用など、学びの機会の確保に取り組んでいただきたい。また、感染防止対策の徹底を図りつつスクーリングが実施できることを期待する。 進路指導では、一定数の生徒が希望する学校や就職先に入ることができたことは成果である。社会への一歩が踏み出せていない生徒に対しては、進路選択のタイミングや方法をさらに工夫していくことを期待する。
2	生徒の状況	生徒指導等の状況 生徒の人格的発達の状況 安全管理の状況 要望等の状況	優れて いる	本校には、何かの理由により一度は高校へ通わないことを選択した生徒が多く入学してくる。そのような生徒の「小規模少人数の落ち着いた環境で学びたい」、「人間的な関係を持ちたい」という思いを大切にしながら、生徒一人一人の居場所づくりをすることを重視し、保護者との綿密な連携や生徒との信頼関係の構築に力を注ぐなど、自立に向けた丁寧な生徒指導を進めていることは高く評価できる。 今後は、通学コースと在宅学習コースの環境の違いについて、学校行事やホームルームの在り方などを関連させながら生徒を含めて検討していくことを期待する。
3	学校管理運営の状況	組織運営等の状況 教育目標と学校評価の状況 設置者と学校の取組状況	良 い	今年度の重点目標は、①通信制高校の利点を生かした学習機会の確保、②地方の教育資源の活用による多様な体験、③入学者(生徒数)の確保の3点である。 ①については、学習指導の評価が「A」となっており、オンライン授業などメディアを活用した学習に積極的に取り組んでいた点は評価できる。 ②については、コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、和寒町でのスクーリングができなかったのは残念である。メディアを活用した学習の中に体験的な要素を取り入れるなど、疑似的な体験を含み、可能な活動を工夫していくことを期待する。 ③については、体験入学や中学校訪問などを通して本校のPRに務めていたことは認められるが、新入生の確保は依然として課題となっている。次年度は、広報活動の見直し、学習活動の内容やコース拡充の検討などによる生徒数の増加を期待する。 さらに、和寒本校の校舎と札幌学習センターの老朽化については、様々な面で課題が多い。本校の設備補修や札幌学習センターの移転についての具体的な検討が必要である。

4	学校・家庭・地域の連携協力の状況	学校に関する情報公開の状況 学校と保護者・地域住民等との連携協力の状況	良 い	学校評価では、「メールやLINEなどのツールを活用し情報交換を頻繁に行うことができた」、「長期欠席などの課題が見られる生徒が新入生に多かったため今後の改善が必要」と、成果と課題、両面の自己評価がされている。また、コロナ禍のため、以前のような保護者会を組織することができなかったが、学級単位で意見交換の機会を設けている。今後も、交流の機会を増やし、生徒たちの教育活動に保護者の意見や協力が反映されるように工夫することを期待する。 地域との連携に関しては、本年度も昨年度に引き続き、コロナウイルス感染症の感染拡大のため和寒町でのスクーリングが実施できなかったが、次年度は感染対策を万全にしながら実施する方向で検討することを期待する。また、学校の取組や生徒の現状について学校自らが和寒町全体に啓発するなどの工夫をし、さらに地域との幅広いつながりを期待したい。
5	学校設置による効果	学校が設置されたことによる経済効果	良 い	今年度は実施することができなかったが、「北海道科」、「自然体験科」の学習を基盤とした和寒町におけるスクーリングは、対話と体験を通した実のある教育活動が期待できる。豊かな体験活動は、生徒の夢や希望の実現の糧となり、将来の支えとなっていると同時に、経済効果としてもプラスに働いている。次年度は、コロナ感染症対策を取りながら、スクーリングが実施できることを期待する。その際は、保護者の和寒町のイベントへの積極的な参加や、本校の和寒町における教育実践の積極的な発信を保護者の理解と協力を得ながら進めていくことを期待する。
6	町との連携協力の状況	町への現状報告及びセーフティネット対策の状況	良 い	学校の運営状況や教育効果は、学校評価や学校審議会等を通して共有化されている。ただ、地域の活性化や地域産業を担う人材の育成のためにも、社会的な使命をより多角的に把握し、教育の質を落とすことなく、多様なニーズをもった生徒の受け入れを推進していく必要がある。 そのためにも、日常的な情報交換や教育活動の紹介など、学校の教育活動への理解促進に努めることは重要である。そして、さらなる教育内容の充実と、生徒の安全安心を担保するセーフティネットの整備に、継続して取り組んでいくことを期待する。

総合評価	良い
------	----

総合所見	三和高等学校評価基準に基づき総合的に評価を行った結果、昨年度に続き本年度も、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、例年にない対応が必要な場面が多くあった中、不登校や高校中退など様々な事情で、必要な学力、人間関係能力、自尊感情等を十分身につけることができずに入学してきた生徒に対し、教師が一丸となって心理面や生活リズムの安定を図る指導を行っている。さらに、ICTを活用した教科指導やきめ細かな進路指導を通して、基礎的・基本的な学習内容を定着させたり、個々の希望に応じた進路実現につなげたりしている点は高く評価できる。 また、本年度はコロナウイルス感染症のため実施することができなかったが、和寒町のフィールドや人材を活用した「北海道科」や「自然体験科」の学習は、和寒町民との交流を活発化させ、経済的効果も期待できる。今後も、多様性のある生徒のニーズに適切に対応できるよう様々な場を通して教職員の指導力の向上を図っていくことが大切であると考え。また、本校のよさを積極的にアピールする情報公開の工夫と、保護者・住民の思いや願いを的確にとらえ実現させていく学校運営に努め、教育特区の高等学校としての使命を果たしていくことを期待する。 一方、新入生の確保は依然として課題となっている。次年度は、広報活動の見直し、学習活動の内容やコース拡充の検討などによる工夫を図り、生徒数が増加することを期待する。
------	--

* 評価については、「模範的」、「優れている」、「良い」、「おおむね満足」、「要改善」の5段階で評価しています。